

原文

指摘事由

明珍について誤解するおそれのある表現である。

(4 - 12 行)

伝記、武士の合戦などが描かれた。

書道では、^{そんえん}尊円が上代の書風のう
えに、新たに^{しょうれんいん}青蓮院流をひらき、後
世の^{おいえりゅう}御家流のもとをなした。工芸で
は、刀剣に京都の^{あわた}粟田^{ぐちよしみつ}口吉光、鎌倉
の^{おがぎまさむね}岡崎正宗、備前の^{おさふねながみつ}長船長光らの名
工があらわれ、^{おおい}鎧・^{あに}兜に^{あいうちん}明珍が出た。
また尾張の瀬戸焼など大陸の製陶技
術を学んだ陶器生産も発展した。

関連修正（上記修正にともなうさくいんの削除）

p.414 さくいん 2 段目

名主	116
明珍	131
名田	99,116

修正文

伝記、武士の合戦などが描かれた。

工芸では、武士の台頭とともに武具の製作がさかんになり、刀剣に京都の^{あわた}粟田^{ぐちよしみつ}口吉光、鎌倉の^{おがぎまさむね}岡崎正宗、備前の^{おさふねながみつ}長船長光らの名工があらわれた。また尾張の瀬戸焼など大陸の製陶技術を学んだ陶器生産も発展した。

書道では、^{そんえん}尊円が上代の書風のうえに、新たに^{しょうれんいん}青蓮院流をひらき、後世の^{おいえりゅう}御家流のもとをなした。

名主	116
名田	98,116